

ジョシエネラボ コラム かんきょう女子の 活動報告書 ④

アイサーチ・ジャパン 代表 相良 菜央



幼い頃からイルカがだいすき。「イルカたちのために、何かしたい」という気持ちを軸に育った相良菜央です。一人でごみ拾いを始めたのは、6歳、小学生にあがった時。学校では新聞係になり、地球温暖化や絶滅危惧種を皆に知らせようと学級新聞に書いてたりする子でした。全ては、「イルカたちのために」。自然豊かな美しい地球を大切にしたい、と強く思い続けてきました。

今は、大学生の頃から十数年ボラティアを続けてきたアイサーチ・ジャパン（国際イルカ・クジラ教育リサーチセンター）の3代目代表。イルカ・クジラの生態を伝え、海の環境問題や自然の大切さを伝える活動に励んでいます。子ども向け「海辺の環境学習教室」を開催する他、鯨類の専門家を招いた大人向けレクチャーの実施、ビーチクリーンなどアクティビティを通じた普及啓発活動、情報発信するフリーペーパーの発行などを行っています。

皆さんは、イルカ・クジラにどんなイメージをお持ちでしょうか？可愛い、大きい、等々あるこ

イルカたちのために、美しい海を大切にしたい 町に住むからこそ、海を想ってごみを減らす

とでしょう。彼らは「実は〇〇！」という部分があったり、何とも興味深い動物なのです。そんな彼らの魅力を伝えた上で、海に起きている環境問題などを伝えると、「彼らのために、できることをしよう」と、幼い子から大人の方まで「ごみ拾ってやるね！」「明日から節電する」「友達たちにも広めましょう」とさまざまな声があがります。一人ひとりの力は小さくても、みんなが集まれば大きな力を生む：イルカたちと共に生きる未来を考える仲間が増えてくれたら、それが私の喜びです。

海にあるごみは、直接海に捨てられた物よりも、私たちの生活圏内から流された物が多いです。どこにいても、私たちの暮らしている場所にはイルカたちが暮らしています。私たちが住むからこそ、海を想ってごみを減らすことができます。暑い夏、青い海に心を寄せ、一緒にごみを減らしてみませんか？どんなに些細なことでも、必ず意味があります。皆さんと、この地球が青く輝く未来へ、共に歩いていきたいです。



小学校のサマースクール。イルカのクイズをして、海の環境について考えます

〈Twitter アカウント〉
https://twitter.com/ICERC_Japan